

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果

令和8年9月30日
京都市立衣笠小学校
校長 日吉 肇

令和8年4月23日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果

国語、算数の2教科ともに、全国平均を上回り、全体的にはとても良好な結果でした。

とくに、国語科の「記述式」、算数科の「短答式」での回答で、正答率が全国平均を大きく上回っていました。学習の内容についても、知識及び技能、思考力・判断力を問う問題の正答率が高くなっていました。一方で、各教科の領域において国語科の「書くこと」、算数科の「変化の関係」での正答率が低い結果であった。このことから、自分の考えを言葉や文章として表現することに苦手意識があるように感じます。また、児童質問紙調査からは、ご家庭でも1時間以上学習している児童が約70%近くおり、予習や復習など、日々の積み重ねができていたり、基本的な知識・技能の習得に一定の成果を上げていることがわかります。

学習に向かう意欲づけや効果的な課題の提示の仕方などを工夫することで、生き生きと自分の思いを表現できる子どもが増えていくよう、引き続き、日々の授業実践を進めていきたいと思います。

国語科より

「書くこと」の分野では、全国平均を上回っているものの、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することの正答率が低くなっていました。全体的に必要な言葉をつなげたり、自分の考えを文章にしたりする表現力に弱さがみられました。日頃、児童は「作文」「感想文」「推薦文」など、様々な書きぶりの文章に触れていますが、それぞれの特徴について理解し、活用していくことができるようにすることが今後の課題です。

算数科より

全体として正答率が全国平均を上回っていましたが、領域別では、「変化と関係」・「データの活用」において、全国平均より下回っている問題がありました。折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述したり、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述したりする問題に弱さがみられました。数値を正しく読取り、判断すること、知識をうまく応用していくことが今後の課題です。

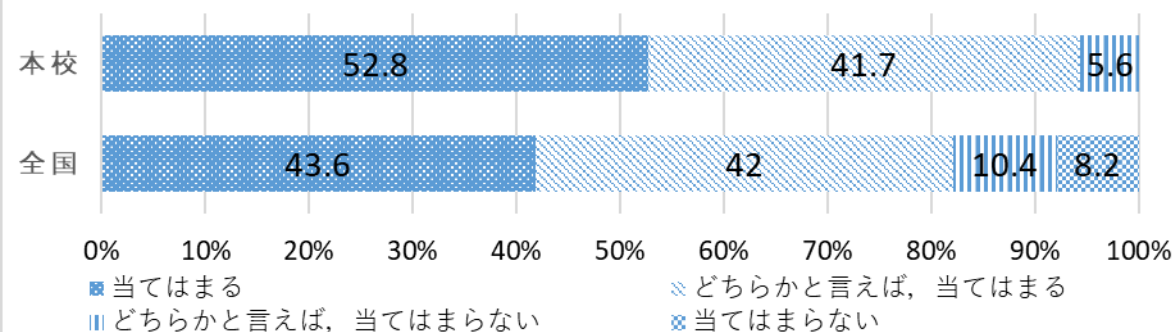
以上のような結果から、学校でも授業を通して改善に努めていきます。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより学力は定着していくものです。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力お願いいたします。

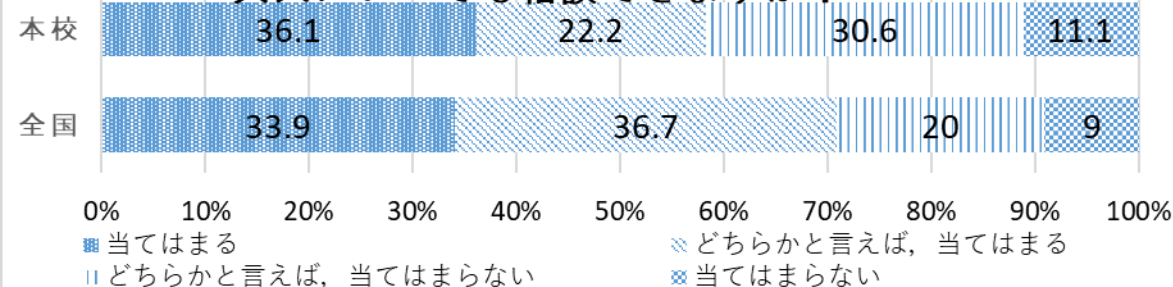
児童質問紙調査から

Q. 自分には、よいところがあると思いますか？



全国平均と比べ、本校児童は94.5%が「自分には、よいところがある」と回答しています。この結果から、本校児童の自己肯定感の高さがわかります。「将来の夢や目標もっていますか」の項目結果の高さにもつながっていますが、学校においては、学習面や生活面での一人一人のよさをしっかりと認め、子ども達の意欲や達成感につながる支援を心がけていきたいと思います。

Q. 困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか？



全国平均と比べても、本校の結果は少し低くなっています。41.7%の子ども達が相談できていないと回答しています。思春期という複雑な時期に差しかかる子ども達にとって、安心できる場所があるということはとても重要なことです。子ども達にとって学校・教室が安心できる場所となり、子ども達の心の声に耳を傾けれるよう努めていきたいと思います。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「人を大切にし 主体的に学ぶ子どもの育成」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員一丸となって取組を進めています。

今回の結果から、本校の子ども達は、全体的に知識や技能がとて高く、最後まで集中して学習に取り組むこと、課題に対して前向きに取り組むことができています。その力をどのように活用し、正しく表現するために工夫していけるかが今後の課題と考えられます。

これからの社会の中では、自分の持っている知識をもとに、それをどう活用していくかが求められています。複数の情報を読み取り、条件に合わせて筋道立てて表現したり、新しい考え方を生み出したりするための思考力や判断力・表現力の育成がとて重要です。低学年の間から課題に対し、自ら考え、グループや学級で話し合いながら試行錯誤を繰り返しつつ、課題の解決にせまっていくような授業を進めていけるように、授業改善に努めていきたいと思います。